

市政レポートは、市議会定例会の翌月（1, 4, 7, 10月）に発行しています。

市長の選挙公約と6月議会

去る4月の選挙において、大豆生田実新市長が誕生しました。5月の臨時議会や6月定例議会では、これまでになく多くの市民が傍聴に駆けつけ、その関心の高さを感じました。「初めて傍聴した」「初めてケーブルテレビで議会を見た」といった声が私のところにも届いています。市民の関心が高まれば、議会もよりいい方向に進むでしょう。こうした状況が今後も続けば、間違いなく足利の政治は変わっていくと思います。

さて、6月議会の一般質問は新市長初登壇ということで、会派代表制で行われました。私が所属する緑風会では、会長の渋沢議員が登壇したため、私の登壇はありませんでした。登壇した多くの議員が過日の市長選挙において、反市長側の候補者を推していたこともあり、新市長への厳しい質問が目立ちました。特に70項目にも及ぶ選挙公約について、その実現性を疑問視する質問が多かったようです。1期4年という短い時間を考えれば、これら全てを実現するのは厳しいでしょう。しかし、特に強く主張していた1) 市長給与30%カット、2) 市議会議員定数削減の提案、3) 行財政改革により10億円を捻出、の3点と、選挙の大きな争点ともなった“ごみ袋の無料化”の4点については、この4年間で実現すべき公約といえるでしょう。なお、これらのうち、市長給与30%カットについては、総務企画常任委員会でいったんは否決されたものの、本会議において僅差ながら可決され、実現の運びとなりました。他の公約についても、今後その内容について十分議論した上で、実現していくことを期待するものであります。



織原 義明（おりはら よしあき） 略歴

- 1965年 足利市生まれ/西小学校、第一中学校、足利高等学校を経て
- 1989年 山形大学理学部地球科学科卒業
- 1990年 一般企業に入社 塾講師、制作、企画営業を経験
- 1996年 科技厅（現文科省）主導による地震予知研究プロジェクトに参加
理化学研究所研究員
- 2003年 足利市議会議員に初当選
- 2007年 足利市議会議員に二期目の当選、建設防災常任委員会副委員長

◆ 副市長を一名にする議員提案に反対討論

6月議会の最終日に、副市長を現行の二名から一名にする条例改正が議員提案され、賛成多数で可決されました。副市長制度が導入された平成18年12月議会において、私は「足利市の人口規模では一名で十分」との立場で、副市長二名制に反対しました。今でもその考えに変わりはありませんが、今回の議員提案には反対しました。なぜなら、副市長二名プラス特別秘書複数名の市長スタッフにしたいという市長の考えが、まだはっきりと示されていなかったからです。なぜ、市長スタッフを拡大したいのか、まずは市長の具体的かつ詳細な話を聞いてから、議会としての判断を下すべきだったのではないかと思います。

両毛六市では佐野市だけが副市長二名で、太田市・館林市・桐生市・みどり市では皆一名です。また、特別秘書というのは都道府県、または政令指定都市レベルの話です。そうした事実を考えれば、本市で副市長二名プラス特別秘書複数名というのは、市長自身が掲げている行財政改革に逆行しているといわれても仕方ありません。しかし、どういう理由で市長はそうにしたかったのかについて、しっかりと話を聞く前に、議会側から副市長を一名にしてしまったことには、問題があると思っています。

◆ 行財政改革プロジェクトチームの提案

大豆生田市長は本議会において「お金がないなら知恵を出す」と何度もおっしゃっていました。本市よりも人口が多い太田市では、副市長一名であるにもかかわらず、さまざまな改革が実現おり、市民の期待が大きい大豆生田市長にもできないはずはないと思っています。

そこで、副市長を一名にする条例改正の反対討論のなかで、その一例も提案させていただきました。まずは組織改編をして、現在行財政改革を担当している課を廃止し、変わりに市長直属の行財政改革プロジェクトチームを作ります。その際、給与形態はそのままにすれば、人件費の増大が防げます。民間の力としては、現存する行政改革推進委員会の改編で対応します。今でも11名中9名が民間人ですが、ここに市長推薦枠を設けてもいいかもしれません。そうすれば、市長意中の人物を参加させることができます。委員会の発言力を強化したいなら、理事会などを設けて、行財政改革プロジェクトチームの会議には常に参加するようにすれば、対応できると思います。また、インターネット等を利用して、広く市民からの意見を聴取するのもいいかもしれません。

これはあくまで一例ですが、「お金がないなら知恵を出して」行財政改革を強力に押し進めることも可能であると、私は考えています。

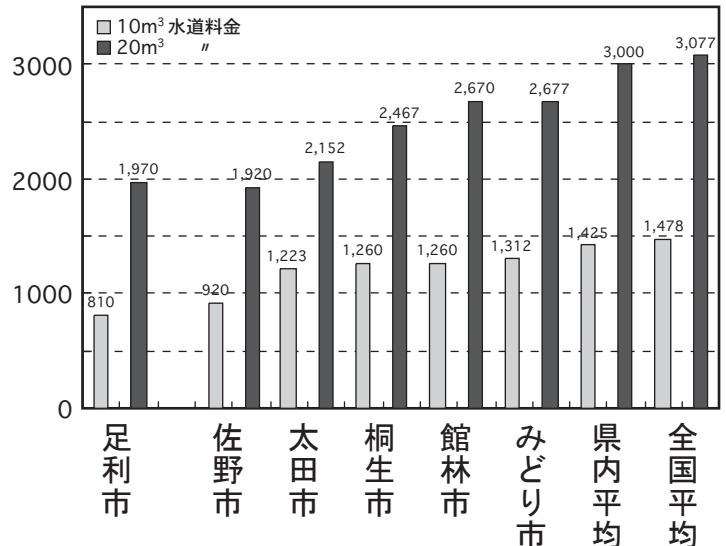
* 足利市は高いのか？上下水道料金の比較 *

4月の選挙期間中に、ある市民の方から「足利市の上下水道料金は太田市より高い」と言われました。選挙になると、とにかく本市の税金等は高いといわれます。本当のところはどうなのか、今回は上下水道料金を比較してみます。下図は両毛六市の上下水道料金になります。

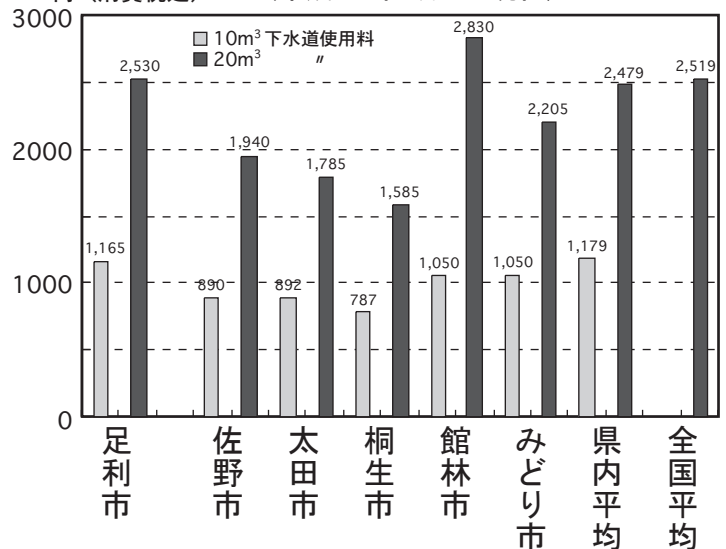
上下水道料金は使用量によって一概に比較はできませんが、太田市と比較した場合、下水道使用料は確かに高いです。しかし、水道料金は足利市のほうが安いです。また、上下水道料金を使用量別にそれぞれ足しあわせた場合、20立方メートルでは、本市のほうが高くなりますが、10立方メートルでは、足利市1,975円、太田市2,115円と、本市のほうが安くなります。

このように、上下水道料金は足利市が太田市より必ずしも高いわけではありません。また、両毛六市のなかでは、使用量10立方メートルの場合2番目に安く、20立方メートルでは4番目です。さらに、県内平均と比較した場合、下水道使用料はほぼ同等で、水道料金は本市のほうが安くなっています。

水道料金比較（口径13mm, 1ヶ月）
円（消費税込）（平成20年4月1日現在）



下水道使用料比較（1ヶ月）
円（消費税込）（平成21年4月1日現在）



足利市水道部資料より作成

★ 第9回オープンミーティング ★

※開催日等については、ホームページにてご案内させていただいております。

市民の皆様との直接対話の場として設けた第9回目のオープンミーティングを、6月16日に市民会館にて開催しました。今回は議会質問のやり取りを紹介するとともに「新市長の公約と市政運営」について、市民の皆様と意見交換をしました。新市長への期待とともに、公約の実現性に対する不安の声もありました。さらに、議会に対する不満の声もあり、自らの反省材料にもなりました。

織原義明のおもな活動(2009年4~6月)

- 4月1日 足利工業大学入学式
- 4月5日 足利公園さくらフェスタ2009
- 4月7日 資源物収集パトロール
- 4月9日 第一中学校入学式
- 4月10日 けやき小学校入学式
- 4月29日 平成21年度足利市消防団第一分団総会
- 5月11日 市道87号線(迫間地下道)開通式
- 5月12日 吉谷宗夫市長退庁
- 5月13日 大豆生田実市長初登庁
- 5月15日 西校地区自治会連合会総会
- 5月22日 全員協議会、議会運営委員会、建設防災常任協議会
- 5月26日 富田中学校学校公開
- 5月27日 けやき小学校創立10周年記念式および学校公開
- 5月29日 全員協議会、臨時議会本会議、議会運営委員会
- 6月5日 全員協議会、市議会6月定例会本会議
- 6月6日 国立環境研究所公開シンポジウム2009(東京)
- 6月11日 市議会6月定例会本会議
- 6月12日 市議会6月定例会本会議
- 6月15日 市議会6月定例会本会議
- 6月16日 総務企画常任委員会(傍聴)、第9回オープンミーティング
- 6月23日 議会運営委員会、市議会6月定例会本会議
- 6月27日 叙勲受賞祝賀式(市民会館)

※ホームページでは、毎週の活動報告等を随時更新しています。

<http://www.watarase.ne.jp/orihara/>

★ 平成20年度 政務調査費収支報告 ★

足利市では市議会議員の調査研究に資するため、必要な経費の一部として議員個人に対し、政務調査費を交付しています。以下に平成20年度の収支を報告します。平成20年度の支給額は前年度から16万円減の84万円となり、支出は約11万円オーバーしました。その分は自己負担となります。なお、収支報告書は情報開示により閲覧が可能です。

収入 ¥840,000 - 支出 ¥954,221 = -¥114,221 ※) ¥114,221 は自己負担

<支出内訳>

研究研修費：¥82,780 調査旅費：¥124,285 資料作成費：¥1,750
 資料購入費：¥83,334 広報広聴費：¥530,326 人件費：¥0
 事務費：¥131,746

研究 研修費 8.7%	調査 旅費 13.0%	資料 購入費 8.7%	広報広聴費 55.6%	事務費 13.8%
-------------------	-------------------	-------------------	----------------	--------------

資料作成費
0.2%